

入試新傾向問題集

富士見丘中学高等学校

中学と高校の入試問題に新傾向問題を取り入れて7年が経ちました。

ここに新傾向問題をまとめた理由は、このような出題を続ける意図を明らかにしたいと考えたからです。

現代社会の特徴は、過去の経験から答を見いだせないような、全く新たな難問に取り囲まれていることではないでしょうか。このことは、2011年に起きた東日本大震災に思いを馳せれば、誰もが気づくと思います。しかも津波が象徴するように、往々にして1つの問題が国境を越えて同時的に発生してしまう。これが問題をより複雑にしています。こうした未知の問題を解決することが私たち、そして次の世代を担う若い人には求められているのです。

教育の目標は、青少年を、健全な社会を担う大人に育てることにあります。そのために必要な知識や技能を養うことが学校に求められます。

子供たちが将来に遭遇するであろう問題が大人の経験域に収まるなら、問題解決のためには過去の事例を知っていることが役立ちます。ところが大人の予想をはるかに超える事態に見舞われる可能性が高い場合、一体何が役立つのでしょうか。教育が、常に未来に目を向ける必要に迫られるゆえんです。

この視点を欠いたとき、教育は直ちに硬直します。教えるべきことが社会の変化とは無関係に固定化され、現実の問題解決との隔たりがどんどん大きくなっていきます。教育を受ける子供は、一体何のために学んでいるのか、勉強の意義を見出し得なくなるはずです。ここにおいて、「目から鱗」のわくわくする興奮が学びのプロセスから消え失せ、教育は形骸化します。

私たちが新傾向問題に求めたものは、頭に詰め込まれた知識をはき出すことで得点を競い合うような事態からの脱却です。模擬試験に手慣れた受験生の想定をくつがえす問題作成を目指しました。知識の有無だけで受験生を選り分けるような問題を出さない（場合によっては、問題文中に解答するうえで必要な情報を盛り込んでしまう）よう心がけました。解答するという行為が、自分の深いところから立ち上ってくる思いを論理的に組み立てる場となるよう工夫しました。

受験生の皆さんに、問題を解くことが賢くなることにつながる体験をしていただければ幸いです。